

講義名	日本近代思想史				授業形態	
担当教員	田中 美子	開講期・曜日・時限		後期 木曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
本学の建学の理念に中内は「個性主義」を掲げている。また、中内は福澤論吉の「実学」の精神も受け継いでいる。これらはともに、近代の価値観である。こうした価値観が日本社会において形成された背景を探り、その利点と問題点を考える。						
到達目標						
1. 近代日本が「個人主義」を導入した経緯を知り、その利点と問題点を考えられる。 2. 「個人主義」「個性主義」の立場で、自分自身の「個性」を生かす生き方を考えられる。 3. グローバル社会における「個性」としての「日本らしさ」を、日本文化論として捉えられる。						
提出課題						
1. 授業毎の考察 2. 学期末レポート						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題に対して、次の授業で全体に向けてフィードバックする。						
評価の基準						
1. 授業毎の考察：約50％ 授業の内容が反映されていること 2. 学期末レポート：約50％ 文献に基づいて調べた内容が客観的にまとめられており、かつ自分の考察が述べられていること						
履修にあたっての注意・助言他						
学期末レポートを作成する際に、新書か文庫程度の文献を購入する必要がある。 授業計画は、受講者の関心に応じて、多少変更することがある。						
教科書						
使用しない。						
参考図書						
.日本文化論の系譜.		大久保慶樹	中央公論新社（中公新書）	814	9784121016966	
.学問のすすめ.		福澤諭吉	岩波書店（岩波文庫）	858	9784003310236	
.日本哲学史.		藤田正勝	昭和堂	4180	9784812217368	

その他		
・藤田正勝『日本哲学入門』ISBN9784065348406 ・新渡戸稲造『武士道』ISBN9784003311813 ・夏目漱石『漱石文明論集』ISBN9784003111109 ・柳宗悦『民藝四十年』ISBN9784003316917 ・和辻哲郎『風土』ISBN9784003314425 ・谷崎潤一郎『谷崎潤一郎随筆集』ISBN9784003105573 ・坂口安吾『書淫論・日本文化私観』ISBN9784003118214 ・丸山眞男『日本の思想』ISBN9784004120391 ・土居健郎『「甘え」の構造』ISBN9784335651298 ・やなせたかし『わたしが正義について語るなら』ISBN9784591137352		
・岡倉天心『茶の本』ISBN9784003311516 ・柳田泉男『遠野物語』ISBN9784003313817 ・西田幾多郎『善の研究』ISBN9784003312414 ・丸鬼周造『「いき」の構造』ISBN9784003314616 ・川端康成『川端康成随筆集』ISBN9784003108154 ・岡本太郎『岡本太郎の眼』ISBN9789784041095812 ・今邊友信『美について』ISBN9784061157248 ・河合肇雄『無意識の構造』ISBN9784121804815		
授業計画		
1. 中内の「個性主義」の思想 2. 福澤諭吉の「実学」の精神 3. 岡倉天心の「茶の本」を中心に 4. 夏目漱石の「私の個人主義」の思想 5. 柳田泉男の『遠野物語』を中心に 6. 柳宗悦の民藝運動とその思想 7. 西田幾多郎の『善の研究』を中心に 8. 和辻哲郎の『風土』を中心に 9. 丸鬼周造の『「いき」の構造』を中心に 10. 谷崎潤一郎の『随筆私観』の思想 11. 丸山眞男の『日本の思想』を中心に 12. 土居健郎の『「甘え」の構造』を中心に 13. 河合肇雄の『無意識の構造』を中心に 14. 今邊友信の『美について』を中心に 15. やなせたかしの正義の思想		
予習：次の授業に関する文献の読解（2時間） 復習：文献の再読とノートまとめ（2時間）		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
「ネアカ　のびのび　へこたれず」の精神を培うとともに、現代社会の現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
受講者は、授業毎の考察をポータルサイトを通じて提出する。 講師は、受講者の関心を次回以降の授業に反映させる。		
実務経験の有無及び活用		
特になし		
備考		
特になし		